

# 研究協力をお願い

昭和医科大学歯科病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

## 下顎枝矢状分割術（SSRO）における unplanned osteotomy の要因の検討

### 1. 研究の対象および研究対象期間

2013年4月1日から2023年12月31日に昭和医科大学歯科病院口腔外科で顎変形症の診断で下顎骨形成術を受けた患者さん。

### 2. 研究目的・方法

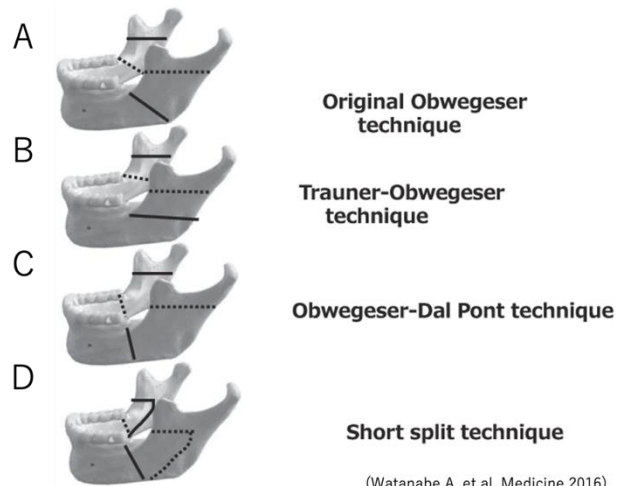
【目的】顎変形症患者さんに対する手術方法として、下顎骨においては下顎骨矢状分割術(SSRO; sagittal split ramus osteotomy)は最も一般的に行われている手術法です。歯が並んでいる部分（骨体部）と顎関節がついている部分（下顎枝）とを手術で分断し、骨体部を理想的な位置へ移動させたのちに、骨体部と下顎枝を固定する方法です。SSROは舌側の骨切り線により、大きく Obwegeser 法（図 A—C）とその変法である Hunsuck-Epler 法が主流で行われています（図 D）。

Obwegeser 法は下顎枝を後縁まで分割するために、骨体部を後方に移動させた場合には、従来の下顎枝より

後方に移動することになります。下顎枝後縁には茎突下顎靭帯を含めた軟組織が付着しており、これが後方に牽引されることが、術後骨格性の後戻りの要因になり得る可能性が示唆されます。

一方で、Hunsuck-Epler 法では下顎枝の後縁を骨体部にはつけないので(short lingual osteotomy; SLO)、骨体部を後方に移動しても軟組織が影響を受けにくいことが示唆されています。しかしながら、舌側の骨切りを下顎枝の後縁まで行わないために、予期していない骨切りになる場合があり、最も多いのが、下顎枝の後縁が全て骨体部になってしまう状態です(short buccal osteotomy; SBO)。この状態で骨体を後方移動すると、骨格性の後戻りが大きくなる可能性があります。しかしながらこれらの評価を行った報告はありません。また、予定通りに Hunsuck-Epler 法にならずに、SBO となるリスク因子に関して検討した報告はほとんどありません。

本研究では、骨切りが SBO となった場合の骨格性の後戻りの評価及び SBO となる危険因子を抽出するこ



(Watanabe A, et al. Medicine 2016)

とを目的としています。

**【方法】**顎変形症に対して SSR0 を行った患者さんの、術後 1 か月の CT で骨切りが Hunsuck-Epker ある  
いは SBO かを決定します。評価は①骨格性の安定性と②SBO となる危険因子の抽出です。

- ① 両者の骨格性の安定の評価を、術前、術後 1 か月、保定時、保定後 2 年経過時の頭部 X 線規格写真  
(正面および側面)を用いて評価します。その際の評価項目は一般的に骨格性の安定を評価する際に  
用いられる角度分析と線分析および距離分析を用います。
- ② SBO となる危険因子の候補として、年齢、性別、下顎枝の薄さ、下顎孔から下顎切痕までの距離、骨  
切り時の器具、下顎枝後縁の形態を評価することとしました。

### 3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果  
通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2028 年 3 月 31 日まで。

### 4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録：性別、手術時年齢、診断、手術方法・器具

頭部 X 線規格写真（正面・側面）。CT 画像。

【頭部 X 線規格写真】セファロ分析に用いる線分析、角度分析および位置変化。

【CT 所見】下顎枝の薄さ、下顎孔から下顎切痕までの距離、下顎枝後縁の形態。

### 5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

### 6. 研究組織

研究責任者      昭和医科大学歯学部顎顔面口腔外科      大場誠悟

### 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他  
の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧す  
ることが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さ  
んもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連  
絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：歯学部顎顔面口腔外科      氏名：大場 誠悟

住所：大田区北千束 2-1-1      電話番号：070-4506-3708